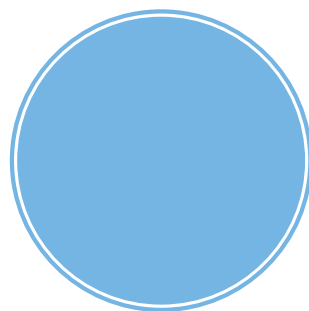


証券コード：7575



...for patient comfort.



第38期
中間報告書

平成29年4月1日 ▶ 平成29年9月30日

主要連結財務データ

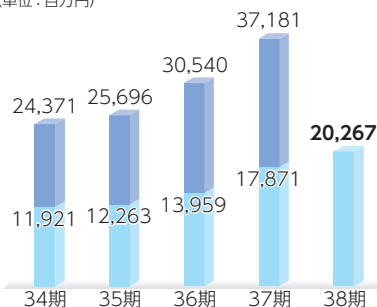
Financial Highlights

当上期決算のポイント

- 売上は計画を上回り好調に推移
- 高収益品の伸長により売上総利益率が改善
- 販管費の一部の未執行により増益幅が拡大

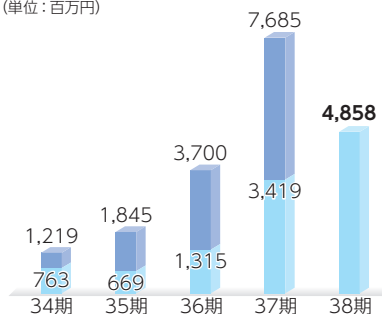
売上高

(単位:百万円)



営業利益

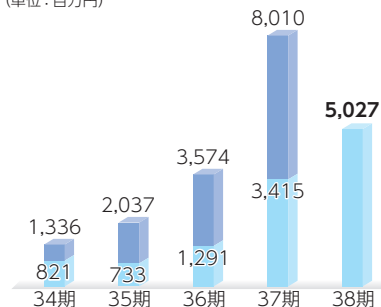
(単位:百万円)



■ 第2四半期累計 ■ 当期

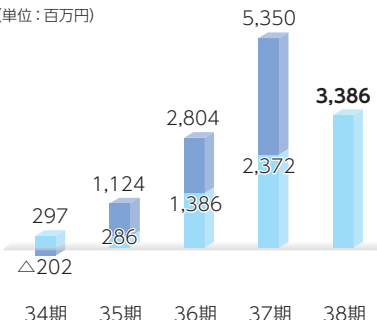
経常利益

(単位:百万円)



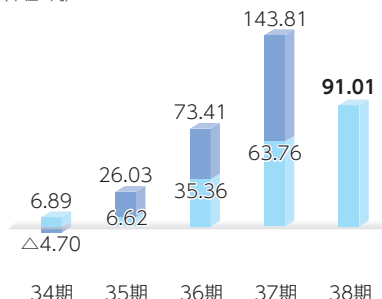
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益

(単位:百万円)



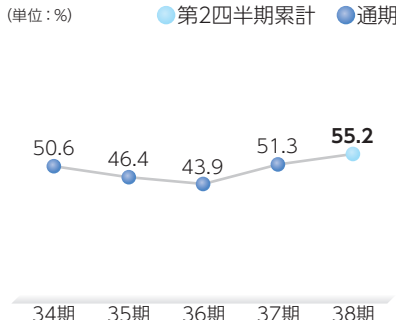
1株当たり四半期(当期)純利益

(単位:円)



自己資本比率

(単位:%)



当社は平成27年10月1日を効力発生日として、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施しております。また、平成28年12月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施いたしました。34期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して「1株当たり四半期(当期)純利益」を算定しております。



ごあいさつ

株主の皆様には平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当上期は、自社製品が引き続き好調に推移したほか、仕入商品においても昨年上市した新商品が医療機関へ浸透したことにより、前年同期に対して増収増益となりました。

当社は今後も既存ビジネスのさらなる拡大に努めるとともに、新たな治療領域への参入や自社製品の海外展開に取り組むことで中長期にわたる持続的成長を図り、一層の企業価値向上を目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 鈴木 啓介



上期の業績はいかがでしたか？

A 当上期におきましては、リズムデバイスにおいて昨年3月より販売を開始した全身のMRI(磁気共鳴画像)検査が可能な心臓ペースメーカーのシェア拡大が進んだほか、EP/アブレーションでは心房細動におけるアブレーション治療の症例数が計画を上回り増加しており、オンリーワン製品をはじめとした自社製品が引き続き伸びました。さらに外科関連におきまして、昨年1月に新規参入した腹部用ステントグラフトが寄与したことなどに

より、当上期の連結売上高は、前年同期に比べ13.4%の増収となりました。

利益面におきましては、自社製品、仕入商品ともに、収益性の高い品目の販売が伸びていることに加え、本年4月1日付で連結子会社を吸収合併したことに伴い未実現利益の調整を行ったことにより、売上総利益率は前年同期に比べ3.7ポイント改善いたしました。また、販売費及び一般管理費におきまして、旅費交通費や営業拠点の開設等に伴う地代家賃等の費用が前年同期に比べ増加した一方で、広告宣伝費等の予算執行が全般的に遅れていること等により、営業利益は前年同期に比べ42.1%の増益となりました。

Q 胸部用ステントグラフトの共同研究開発契約について教えてください。

A 本年9月に腹部用ステントグラフトの仕入先であるエンドロジックス社(米国)と、新たに胸部用ステントグラフトに関する共同研究開発契約および独占販売契約を締結いたしました。

この共同研究開発契約は人工血管やオープンステントグラフト等、日本の医療現場のニーズに応える医療機器を開発し、広く普及させてきた当社と、腹部を対象とする大動脈治療領域において革新的な製品を開発してきたエンドロジックス社が、共同で胸部用の製品を開発するものです。

当社としては、従来のメーカーとディストリビューターという関係性から一歩踏み出した取り組みを行うことで、グローバル市場においても存在感のある製品を開発できると考えており、自社技術のみにこだわることなく、高い技術を持ったパートナーの開発力を商品パイプラインに取り込むことで、最新・最適な医療機器を提供するための選択肢を広げてまいります。

Q 心臓循環器領域以外への進出の計画はありますか？

A 当社は今まで心臓循環器領域に特化してビジネスを展開してまいりましたが、当上期には大腸ステント[Jentily(ジェントリー)]の販売を限定施設で開始し、消化器領域に新規参入いたしました。本製品には当社のオンリーワン製品であるオープンステントグラフト「J-Graft

FROZENIX(ジェイグラフト フローゼニクス)」の技術を採用しており、初の国産製品として多くの医師から注目を頂いております。今後は、年明けのフルリリースに向けて準備を進めるとともに、その他の領域につきましても、自社製品技術の応用の可能性について積極的に検討を進めてまいります。

Q 国内事業が好調ですが、今後の海外事業について教えてください。

A 現状の当社ビジネスの中心は国内市場ですが、中長期的にさらなる成長を実現するためには、自社製品の海外展開が課題の一つであると認識しております。現在、オープンステントグラフト「J-Graft FROZENIX」の海外展開に向けた取り組みを進めており、本年11月には台湾において保険償還価格の適用を受け、今期中の出荷開始を目指しております。また、欧州におきましても、本年中にはCEマークを取得できる見通しであることから、イタリアを始めとして欧州各国へと順次、販路を拡大してまいります。

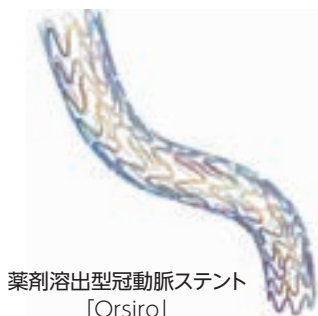
また、海外における開發生産体制として、マレーシア工場の建設に向けた検討を進めております。目的としては、中長期的なビジネスの拡大に伴う物量増に対応すること、また、一層の原価低減を図ることで収益性を高めていくこと、さらには、製造拠点を国外にも設置することで地政学的リスクを分散させることを目指しております。将来的には、海外市場向け製品の製造も行うことで自社製品の海外展開における中核的な製造拠点とすることも視野に入れ、取り組んでまいりたいと考えております。

Q 通期および来期の見通しについて教えてください。

A 下期におきましては、第4四半期に上市を計画していた新商品の内視鏡アブレーションシステム「HeartLight(ハートライト)」、スーチャレス生体弁「PERCEVAL(パーシバル)」が新たな保険償還価格の取得に想定よりも期間を要することとなり、来期上期の上市となる見通しです。しかしながら、その他の既存商品は引き続き堅調な販売が見込まれることから、通期の売上高は本年4月公表の計画を達成する見通しです。

また来期につきましては、4月に保険償還価格の改定が予定されているものの、心房細動の症例数増加により、引き続き自社製品の伸長が見込まれます。また前述の他、当期の第4四半期に導入を予定する大型の新商品、薬剤溶出型冠動脈ステント「Orsiro(オシロ)」が来期は通年で寄与する見通しであることから、売上、利益ともに従来の中長期計画を上回るものと考えております。

当社といたしましては、今後も中長期を見据えた新たなチャレンジを通じて持続的な成長を実現し、ステークホルダーの皆様のご期待に添えるよう、努めてまいります。



薬剤溶出型冠動脈ステント
「Orsiro」

Topics

内視鏡アブレーションシステムの薬事承認を取得

当社は本年7月にカーディオフォーカス社(米国)製の内視鏡アブレーションシステム「HeartLight」の薬事承認を取得いたしました。本商品は心房細動のアブレーション治療の確実性や安全性を高める製品として期待されており、来期上期の上市を目指し導入準備を進めてまいります。



内視鏡アブレーションシステム「HeartLight」

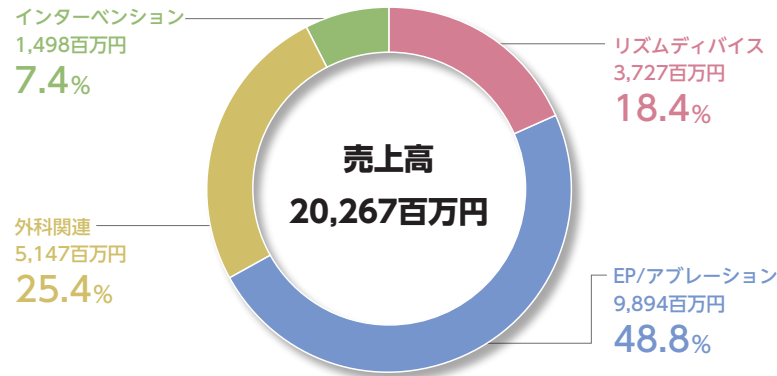
【特長】

- ・国内初のレーザーと内視鏡を用いたバルーンアブレーションシステム
- ・従来の高周波アブレーションカテーテルに比べ、肺静脈隔離術の効率的な実施が可能
- ・出力調整が可能なレーザーと内視鏡を介した直視により、合併症のリスクを低減

品目別売上高

Sales By Product

当社では心臓循環器領域の幅広い疾患に対応する医療機器を扱っており、国内外のメーカーから仕入れた商品のほか、自社グループ製品としてEPカテーテル、アブレーションカテーテル、バルーンカテーテル、ガイドワイヤーおよび人工血管等を販売しております。



リズムデバイス 不整脈を治療する 植込み型の医療機器を扱う

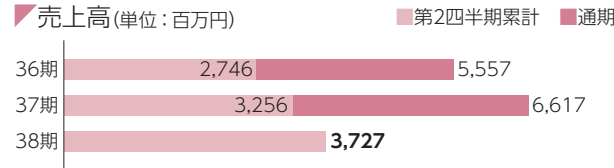
売上高構成比
18.4%

主要取扱品目

- 心臓ペースメーカ
- ICD (植込み型除細動器)
- CRT-D (除細動機能付き両心室ペースメーカ)



心臓ペースメーカにおきましては、昨年3月より販売を開始した、全身のMRI (磁気共鳴画像) 撮像が可能な、心臓ペースメーカ「KORA250 (コーラ250)」が伸びました。また、本年6月より同商品に対応したペースメーカリード「VEGA (ベガ)」の販売を開始し、対応症例が広がったことも心臓ペースメーカの販売に寄与いたしました。
以上により、リズムデバイスの売上高は、37億2千7百万円 (前年同期比14.5%増) となりました。



外科関連

血管や心臓の弁を置き換え
治療する医療機器を扱う

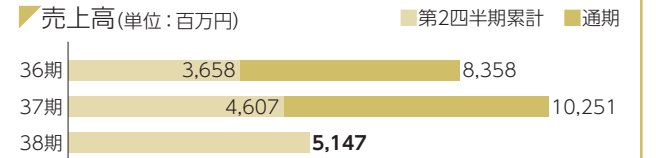
売上高構成比
25.4%

主要取扱品目

- 人工血管
- ステントグラフト
- 人工弁輪
- オープンステントグラフト
- 人工心臓弁
- 血液浄化関連商品



人工血管関連におきましては、ステントグラフトに関して、昨年1月に新規参入した腹部用の商品である「AFXステントグラフトシステム」の販売数量が、大幅に増加いたしました。さらに、当社のオンリーワン製品であるオープンステントグラフト「J-Graft FROZENIX」も、治療の低侵襲化に寄与する医療機器として普及が進みました。
以上により、外科関連の売上高は、51億4千7百万円 (前年同期比11.7%増) となりました。



インターベンション

心筋梗塞等を治療する
カテーテル等の医療機器を扱う

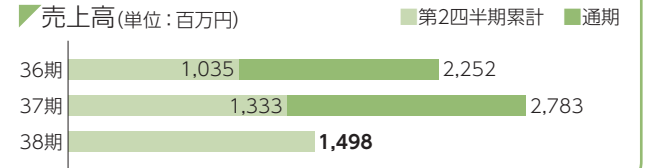
売上高構成比
7.4%

主要取扱品目

- バルーンカテーテル
- ガイドワイヤー
- 貫通用カテーテル
- 心房中隔欠損閉鎖器具



バルーンカテーテルにつきましては、本年6月より新たに販売を開始した末梢用のバルーンカテーテル「Mastuly (マストリー)」の販売数量が増加いたしました。その他の品目におきましては、貫通用カテーテル「Guideliner (ガイドライナー)」が堅調に推移したほか、昨年2月より販売を開始した心房中隔欠損閉鎖器具「Figulla Flex II (フィギュラ・フレックスII)」の医療機関への浸透が進みました。
以上により、インターベンションの売上高は、14億9千8百万円 (前年同期比12.4%増) となりました。



EP/アブレーション 不整脈の検査や治療を行う 電極カテーテルを扱う

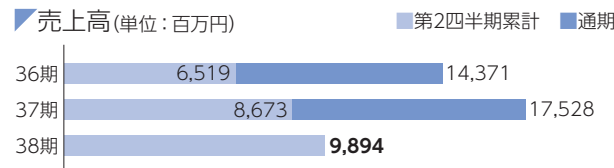
売上高構成比
48.8%

主要取扱品目

- EP (電気生理用) カテーテル
- アブレーションカテーテル
- 心腔内除細動カテーテル
- 食道温モニタリングカテーテル
- 高周波心房中隔穿刺針



EPカテーテルにおきましては、心房細動のアブレーション治療の症例数増加を背景として、オンリーワン製品である心腔内除細動カテーテル「BeeAT (ビート)」を中心に自社製品が引き続き伸びました。また、仕入商品としては、国内では当社のみが販売する高周波心房中隔穿刺針「RFニードル」の販売数量が増加いたしました。
以上により、EP/アブレーションの売上高は、98億9千4百万円 (前年同期比14.1%増) となりました。



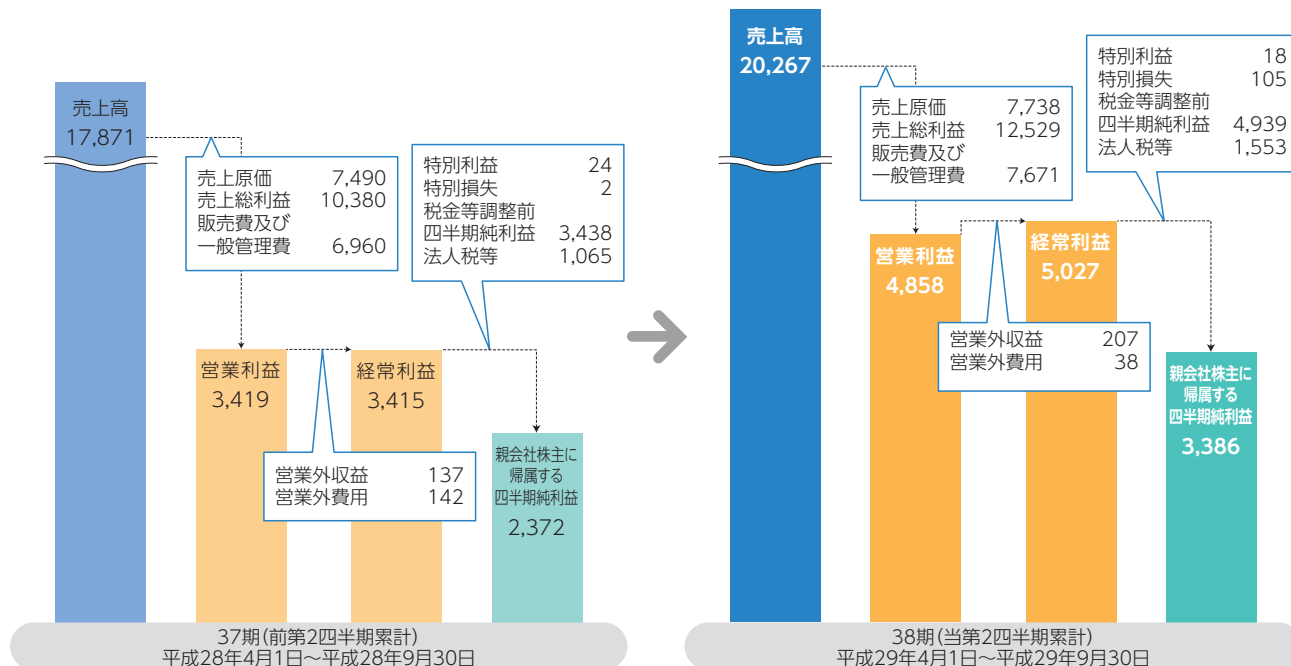
※前連結会計年度末まで連結子会社でありましたJUNKEN MEDICAL株式会社が取り扱っていた血液浄化装置等は前連結会計年度まで「その他」の区分で集計しておりましたが、平成29年4月1日付で同社を当社が吸収合併したことにより、区分の見直しを行い、第1四半期連結会計期間より「外科関連」の区分で集計しております。これに伴い、比較可能性を確保する観点から、第36期、第37期の連結会計期間についても組み替えて記載しております。

連結財務諸表

Consolidated Financial Statements

四半期連結損益計算書の概要

(単位:百万円)



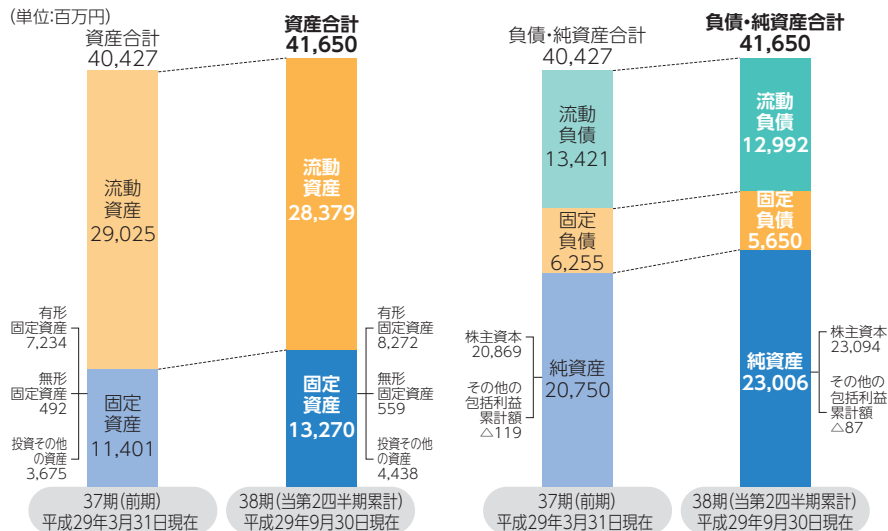
営業利益

仕入商品および自社製品ともに、収益性の高い品目の販売が伸長していることに加え、本年4月1日付で連結子会社を吸収合併したことに伴う未実現利益の調整などにより、売上総利益率が前年同期に比べ3.7ポイント改善いたしました。販売費及び一般管理費におきましては、旅費交通費や営業拠点の開設等に伴う地代家賃等の費用が前年同期に比べ増加した一方で、広告宣伝費等の経費予算の執行が全般的に遅れていること等により、当第2四半期連結累計期間の営業利益は48億5千8百万円(前年同期比42.1%増)となりました。

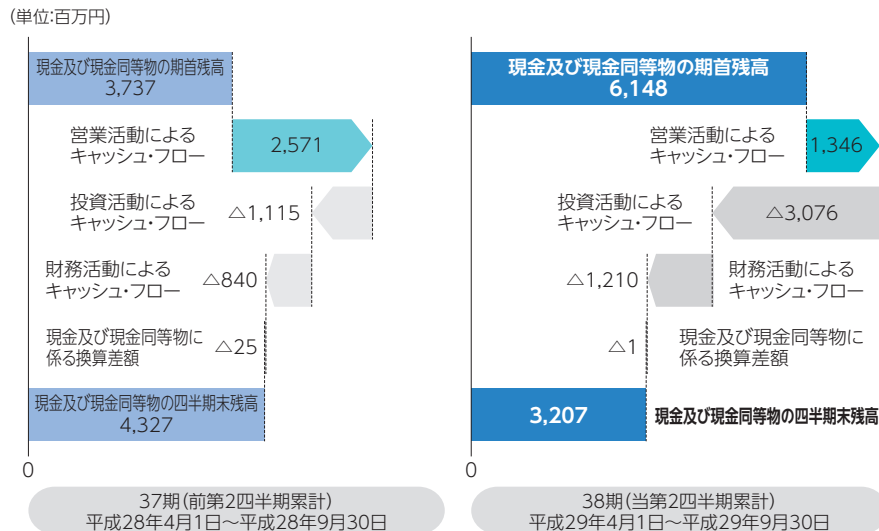
親会社株主に帰属する四半期純利益

子会社工場の移転に伴う固定資産売却益等の特別利益を1千8百万円計上した一方で、同工場の移転費用をはじめとする特別損失を1億5百万円計上したこと等により、当第2四半期連結累計期間の親会社株主に帰属する四半期純利益は33億8千6百万円(前年同期比42.7%増)となりました。

四半期連結貸借対照表の概要



四半期連結キャッシュ・フロー計算書の概要



流動資産

現金及び預金が29億4千1百万円減少した一方で、たな卸資産が8億4千4百万円、流動資産のその他が12億1千6百万円増加したことにより、前連結会計年度末に比べ6億4千5百万円減少し、283億7千9百万円となりました。

流動負債

仕入債務の減少により、前連結会計年度末に比べ4億2千8百万円減少し、129億9千2百万円となりました。

固定負債

長期借入金の減少により、前連結会計年度末に比べ6億4百万円減少し、56億5千万円となりました。

営業活動による キャッシュ・フロー

税金等調整前四半期純利益が15億1百万円増加した49億3千9百万円を計上した一方で、たな卸資産の増加による支出が8億5千1百万円、仕入債務の減少による支出が3億9千万円(前年同期はそれぞれ5億9千3百万円と5億1千2百万円の収入)となったことにより、前年同期と比較して12億2千4百万円減少した13億4千6百万円の収入となりました。

会社概況

Corporate Data

■ 会社概要 (平成29年9月30日現在)

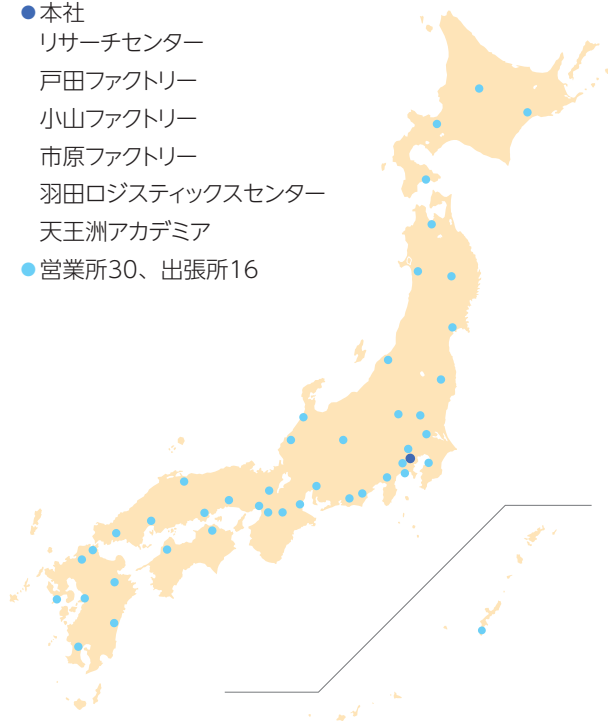
商号	日本ライフライン株式会社
所在地	東京都品川区東品川二丁目2番20号
設立	昭和56年2月6日
資本金	2,115,241,600円
従業員数	連結897名 単体807名
上場取引所	東京証券取引所 第一部
連結子会社	SYNEXMED(HONG KONG)LTD. 心宜医療器械(深圳)有限公司 (注)平成29年4月1日付で当社はJUNKEN MEDICAL株式会社を吸収合併いたしました。

■ 役員 (平成29年9月30日現在)

代表取締役社長 鈴木 啓介	取締役 高宮 徹
代表取締役副社長 鈴木 厚宏	取締役 出井 正
常務取締役 高橋 省悟	社外取締役 佐々木文裕
取締役 黒沼 孝之	社外取締役 池井 良彰
取締役 野上 和彦	常勤監査役 神谷 安恒
取締役 山田 健二	社外監査役 中村 勝彦
取締役 渡辺 修	社外監査役 浅利 大造

■ 事業所 (平成29年10月31日現在)

- 本社
リサーチセンター
戸田ファクトリー
小山ファクトリー
市原ファクトリー
羽田ロジスティックセンター
天王洲アカデミア
- 営業所30、出張所16



最新の会社情報およびIR情報は当社ホームページをご覧ください

<http://www.jll.co.jp/investors/>

当社の最新ニュース、製品案内および財務情報等の株主・投資家の皆様向けの情報をご覧ください。

✉ 投資家情報メールマガジン

“IR-eNews”

IRの最新情報をお届けしております。ご登録は当社ホームページの投資家情報ページよりお願いいたします。



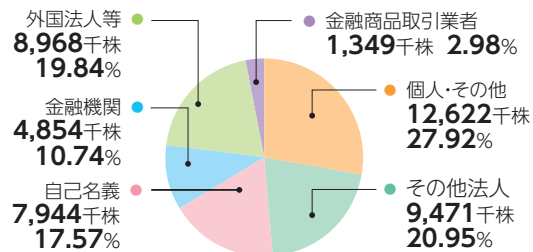
株式の状況 (平成29年9月30日現在)

発行可能株式総数	173,200,000株
発行済株式の総数	45,209,988株
株主数	7,987名

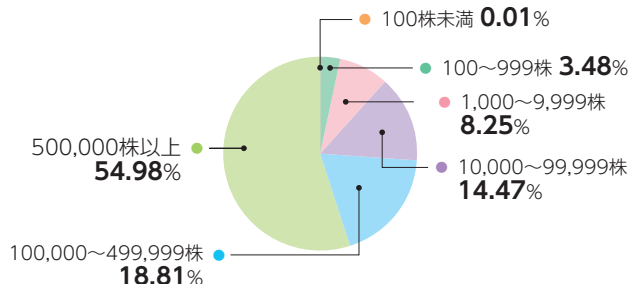
大 株 主

株主名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	持株比率(%)
エムティ商会株式会社	4,930	13.23
KS商事株式会社	4,384	11.76
鈴木啓介	1,325	3.56
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	896	2.40
JPLLC CLIENT SAFEKEEPING ACCOUNT	775	2.08
BBH FOR MATTHEWS JAPAN FUND	747	2.01
片山晃	729	1.96
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	696	1.87
THE BANK OF NEW YORK, NON-TREATY JASDEC ACCOUNT	690	1.85
日本ライフライン従業員持株会	669	1.80

所有者別株式分布



所有数別株式分布



(注)持株比率は、自己株式(7,944,908株)を控除して計算しております。

株主メモ

決算期	3月31日
定時株主総会	6月
単元株式数	100株
定時株主総会の基準日	3月31日
配当金受領株主確定日	3月31日 なお、中間配当を実施する場合の株主確定日は、9月30日といたします。
公告方法	電子公告の方法により行います。 公告掲載URL http://www.jll.co.jp ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
〈お問合せ先〉	0120-232-711 (通話料無料)
〈インターネットホームページ〉	http://www.tr.mufg.jp/daikou/

【株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について】

- 住所変更、単元未満株式の買取・買増請求、配当金受取方法の指定・変更等
 - ▶証券会社等の口座に株式をお持ちの株主様
口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。
 - ▶特定口座に記録された株式をお持ちの株主様
上記特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行にお問い合わせください。
- 未受領の配当金について
未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

本報告書の記載内容のうち、歴史的事実以外の事項につきましては、現時点で入手可能な情報に基づく当社の計画または将来予測であります。

実際の業績はさまざまなリスクや不確実な要因の影響により、本報告書の記載と異なる可能性がありますことにご留意ください。

日本ライフライン株式会社

〒140-0002 東京都品川区東品川二丁目2番20号
電話 03-6711-5200
URL <http://www.jll.co.jp>



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。